常磐東小学校　校長だより

# 常なる磐

つねなる　いわ

令和２年１１月２０日(金)
その１

## ◇ きっかけ❶　記念式典に向けた準備の経過を振り返る

４年間の長きにわたり、準備を進めていただいた「創立 120 年ならびに移転新築 34 年記念行事」については、万全の準備が式典を温かみのある催しへと導き、感動を添えながら滞りなく一切の幕を閉じた。

これまでご支援いただいた関係各位に感謝申し上げるとともに、今後も、変わらぬご支援、ならびにご理解とご協力をお願い申し上げたい。

さて、表題の「きっかけ」というのは絶妙な存在で、その「きっかけ」を境に事が善きに転じることは多々あることである。

（※事が悪しき方向に転ずる場合、「きっかけ」は使わずに「発端」や「ひきがね」を用いる。）

ただし、「きっかけ」とするかどうかは、その人にゆだねられるといってもよい。絶妙なタイミングだと悟って「きっかけ」とするのか、ぼうっと聞き逃し、見過ごして好機を逃すかは、受け手の心持ちが大部分を占めるのだ。

これまで幾度となく好機を逃してきた自分であるが、今回は違った。

４・５月の休校期間中、何かできることはないかと考えて行動に移したのが高圧洗浄機による桜の洗浄（ウメノキゴケの除去）。これが環境整備の始まりである。

洗浄機の扱いに慣れてないものだから、時折、狙いとは見当違いの方向に高水圧の水が流れ飛ぶ。そこで、たまたま地べたのタイルに集中的に水圧がかかり、タイルがきれいになることに気付いた。この場面、まさに「きっかけ」である。

試しに近辺のタイルに水圧をかけると、とてもじゃないが除去できそうもない経年によるこびり付き汚れも、根気よく水圧をかけると徐々に取れていく。そう、通信番組で見たあの場面。頭の隅の記憶と現実がつながった。『こういうことか』

桜の洗浄後にタイル洗浄に切り替え、しばらくして汚れは経年の泥汚れではなく、コケによるものだと認識した。傷んだ海藻のような、ヘドロのような生臭い匂いである。この匂いと激しい洗浄物の跳ね返りに気持ちがめげそうにもなるが、こういう時に声が掛かる。新品同様とはいかないが、汚れが取り除かれて美しくなったタイルを評した「黄色い声」だ。本校の教頭は、これが実に上手い。絶妙のタイミングで声が掛かるから、またエンジンがかかる。これも「きっかけ」。

このように、「きっかけ」となる好機に巡り合えるよう、神様が上手に与えてくださる。それを受け入れられるかどうかは、エネルギー源の有無であると考える。

そう、最大のエネルギーは子供である。

休校が明け、子供たちが登校するようになると、ちゃんとタイルの変化に気付く。さらに、そのことを口に出してつぶやくから気持ちがよい。素直な思いが真っ直ぐに伝わり、なおのこと嬉しさは増す。さらに、子供の下校時に作業をしていれば、姿を見かけて「がんばって」と声が掛かる。

教員は誰でもそうだが、いくつになっても、立場が変わっても、子供のためなら頑張れるものだ。子供の存在こそエネルギー源であり、「きっかけ」をも不要とさせるのだ。

エネルギー源があるから、洗浄作業はまだまだ続く。
タイルを洗浄しながら、次を考える余裕が出始めた。タイルの次は壁面である。
本校の造りは、立地上、構造を加味して他校よりも壁が多い造りになっている。水平な地面に比べ、垂直な壁面はそんなに汚れないだろうと思われるかもしれないが、そうではない。コケは強敵だ。水分を含んだ多少の汚れがあれば容易に繁殖できるらしい。

壁面洗浄と地洗浄の大きな違いは、汚れの跳ね返りだと気づいた。顔面への跳ね返りは普通にある。ここで活躍したのは防護眼鏡ではない。フェイスシールドである。コロナ対策用品が他の場面で大活躍、といったところだ。

洗浄作業が日常になってくると、今まで気にもしなかったことが見えてくる。これも次なる「きっかけ」となっていく。

今回はこれぐらいに留めて次号へ　つづく。

★その１の結論

「きっかけ」は連鎖の兆しがある。
その連鎖の兆しを受け止められるかどうかが重要。
兆しを受け止め、「きっかけ」を連鎖させてこそ、好転へと導く。